

ケア コミュニティ ジャパン

Care Community Japan

8pm ~ 9:30pm, 27th October, 2022
ケアコミュニティジャパンプロジェクト説明会
参加34名

頂きましたご質問

- ▶ 出来るところから始めて行って欲しいと思います。夢は大きく、期待する側も大きなことを希望してしまいがちですが、それでは無理があると思います。その後の進展などをお聞かせいただくのを楽しみにしています。
- ▶ 10月27日は日本からイギリスに戻る機上なのでズーム参加できませんが、活動報告は知りたいです。書面やパワーポイントなど、後日見せてもらえるものはありますか。
- ▶ Fundingにつき 具体的な行程表・活動予定はあるのでしょうか？
- ▶ CCJプロジェクトのこれまでの説明資料をCCJ Web siteにアーカイブとして掲載する要望に対する対応
- ▶ CCJプロジェクトの最新状況の説明資料を10月27日の説明会の前に配布し、皆さんに事前に目を通して頂いた上で当日の説明会を行うと言う要望に対する対応
- ▶ CCJ債券発行会社の設立時期・必要資本金・資本金の調達が目途・債券発行予定時期
- ▶ これまでのCCJ プロジェクトに関するQ&Aを皆さんと共有する為に、CCJウェブサイトにもQ&Aを掲載する要望に対する対応

頂きましたご質問

- ▶ CCJプロジェクトのブローシャー作成案の最新状況
- ▶ CCJケアホーム^Iの施設利用権方式の入居一時金・分譲所有権方式の売買価格の設定の提案に対する回答
- ▶ CCJ プロジェクトのDue Diligence（法令適合性）・Feasibility Study（プロジェクトの実現可能性の検証）の結果
- ▶ 英国のインフレ・イングランド中央銀行のベースレートの引上げに伴うCCJ債券の償還期間・利率（固定・変動）の見直し
- ▶ CCJ 債券発行会社のFCA（Financial Conduct Authority）への登録、FSCS(Financial Services Compensation Scheme) の活用提案
- ▶ 初めは日本人在住の方の最後をケアするホスピスの様なものをを作る目的だったように思うのですが、段々夢が大きくなってきている様で費用、時間等も夢の様だと思います。最初の案に戻して小さい所からやったら如何でしょうか？
- ▶ 課題とその解決策そして、今後の具体的計画提案
- ▶ 会の活動内容や進捗状況の報告を勉強会の前に知らせていただけると勉強会当日に質問がしやすくなるのではないのでしょうか？または活動の報告前に提案等の意見をとるのは如何でしょうか。もしすでにいろんな意見がでているならそれらを報告していただきたいと思います

ケアーホームプロジェクトの基本理念

英国に居住する私たちのプロジェクトです

- ▶ 高齢者が一人で生活ができなくなったら、日本文化のある環境（言語、食事、他）の中で安心できる人生を！
必要度の高い方からの入居、将来を見据えて高いサービスとそして同じくこの先20年は時代遅れにならない建物、施設
- ▶ 自宅での高齢者を支援できるネットワーク構築
- ▶ 2本の柱

I

ケアホームプロジェクト概要（１）

英国在住の日本人コミュニティーを中心とした介護ケアサービス

- ▶ 組織：非営利団体として運営
- ▶ 規模：最大 65 居室
- ▶ 入居基準：日常生活が一人では困難になった方を含む優先度の高い方
- ▶ 使用言語：日本語、英語で行われる。
- ▶ 設立地域：ロンドン周辺、

希望者全員にご入居が叶わない可能性も高いと推測します。このプロジェクトはこのケアホームをセンターとして全国ネットワークを作り、ケアが必要とされるすべての人が一定のサポートが受けれることを目指します。

プロジェクト概要（２）

▶ プロジェクト資金：約1500万ポンド（土地、建物、運転資金、他）

▶ タイムライン： 2019～2022調査
▶ 2023～2025資金調達
▶ 2025～2027土地、設計、建設
▶ 2027/28～事業開始

入居費用？ ： 未定、このプロジェクトはプライベートケアホームとなり

入居費用は事業運営のために必要な金額を設定することになります
ますが、現存するプライベートケアホームの入居金を超えるものではありません。
高い快適さを追求いたしますが、高い利益を求めるものではありません。

土地、建物の資金はどこから来る？

- ▶ ^も 日本政府 ???
- ▶ 英国政府 ???
- ▶ 足長おじさん？
- ▶ 英国在住の私たち ○

プロジェクト概要（３）

- ▶ 資金調達：チャリティーボンド発行、額面 1 万ポンドのボンド（債権）を起債、年利（ $x\%$ ）
- ▶ ボンドの購入者：①英国に在住する日本人レジデントにプロジェクト予定金額の 50%以上をお願いする
②英国で事業を展開している日系企業を中心に企業にプロジェクト予定金額の 50%の購入をお願いする。
③ほかにこのプロジェクトをサポートして下さる英国日本を含む不特定多数の人々からのサポートも期待したい

ノート：英国の土地、建物が、購入いただいたチャリティーボンドの担保として有効となります。

プロジェクト概要（４）

チャリティーボンド : 年率 $\{x\%$ ケアホーム運営による剰余金からの支払い、事業開始後4年目が目標

チャリティーボンドの信頼性 : 担保として土地、建物、不動産価格の価値が歴史的に見ても担保として十分その機能を果たします。ボンド償還期限10年、10年後の償還金額はボンドの再発行

フイージビリティスタディ試算抜粋

- ▶ ファイナンス
このプロジェクトの完成に必要な資金とオペレーション開始に必要な金額はこの時点で
おおよそ£15,000,000 (Feasibility Studies次ページ参照)

内訳

	土地購入	4,000,000
▶	建設費	8,000,000
▶	備品	1,000,000
	Feasibility studies by a third party	10,000
▶	Financial modelling	5,000
▶	Brochure	10,000
▶ I	Site search	20,000
	Agency fees	80,000
	Legal costs	250,000
▶	事業開始前の人件費他 (YEAR ZERO)	650,000
▶	予備費	200,000
	Cash(赤字補填分)	520,000

初年度の事業赤字額

— 520,000

参考デモグラフィー

▶ 英国の場合	英国に住む日本人の場合	帰国率を30%マイナス	London周辺70%
▶ 70歳代の人口約1,000万人— 全人口の約15%	3,500人 全人口の14%		
▶ ケアーホームのレジデント約50万人— 70歳代の人口の約5%	左記を参考にしたポテンシャル	175	122
▶ ホームケアの人口約95万人—同9.5% 145万人(14.5%)	同上ポテンシャル	332	232
			162 247人(7%)

認知症発症率 (日本人の場合)

- ▶ 認知症の発症率は、年齢別に見ると年代が上がるほど増加傾向にあります。

60代では3%程度と認知症の発症率はそこまで高くありません。
しかし、70代の後半では男性12%・女性14%、80代後半になると男性35%・女性44%と大幅な増加が見られます。

- ▶ 90代の後半ともなると、男性の51%・女性の84%もの割合で認知症が発症するという結果が出ています。
- ▶ 健康ネットワークより
- ▶ これから推測できること、70代以上の人口の20%近くは認知症の発症が起こりうる。この数字を英国の日本人人口から見ますと、約現在700名、帰国する方を30%としますと、全国510名、ロンドンとその周辺ではこのうち350人

チャリティーボンド購入お約束のお願い (PLEDGE)

目標金額 1500万ポンドを2024年まで皆様のお約束を頂き、このプロジェクトを形にしたいと思います。
実際のチャリティーボンド購入（ご入金）は2024年後半を予定しています。この購入お約束は義務として拘束される性質
ではございません。

I

- ▶ チャリティーボンド購入申し込みをいたします。
- ▶ お名前
- ▶ 住所
- ▶ 電話
- ▶ メール
- ▶ 購入金額：一口、1万ポンド、またはX 口XX万ポンド
- ▶ チャリティープロジェクトに賛同し、当該プロジェクトのスタートする時点（2024年予定）に指定の銀行口座に申込金額を支払います。
- ▶ ご署名？に

ここまで来たが、いくつかのチャレンジ が

前述の設計図に対して異なった意見

- ▶ このプロジェクトは大きすぎて実現の可能性が難しいので小規模で始めたら
- ▶ 経営が難しい、特にコロナで閉鎖したところも
- ▶ 住み慣れた地域にホームがなければ遠くにあるホームに入居したくないかも
- ▶ ケアーホームというよりも、訪問介護が大切ではないか
- ▶ 資金集めが大変だから、まずはネットワークづくりから
- ▶ 元気な時から入居できコミュニティーのある施設、コーハウジング、(Retirement Home)の方がいいのでは？
- ▶ ではどこから始める！

もう一つのチャレンジ



- ▶ このプロジェクトはどのように進めるとしても、私たち英国に在住する日本人が中心のものです。

すべてがこの理念から始まります。一個人の資金で始まるものではありません。
多くの皆様の支援なしでは成り立ちません。

- ▶ ボランティア活動の限界, 前述のように各個人の意見と一つの指針がまとまりにくい
- ▶ ボランティア人材の、例えばIT、ファンドレイジングのための要員